

曹洞宗 圓祥山大安寺 住職:長岡俊應

〒039-4401 青森県むつ市大畑町本町80番地
Tel 0175-34-2926 Fax 0175-34-6426
E-mail info@daianji.jp
http://www.daianji.jp

大安寺報

名句・名言に学ぶ

モーリス・メーテルリンク (劇作家)

なんだ、あれが僕たちの探している青い鳥なんだ。僕達は、いぶん遠くまで探しに行ったけど、本当はいつにもここにいたんだ。

いつになく寒さが厳しく、また雪の多い冬も終わりを迎え、春の足音が聞こえ始める時期となりました。月遅れの涅槃会を経て春のお彼岸の時期となり、気持ちも少しずつ華やいで、何かと行動を開始する時期ではないでしょうか？

さて、彼岸会は迷いのない穏やかなお悟りの世界(彼岸)に思いを馳せ、迷いにあふれたこちらの世界(此岸)での生き方をより善くしていこうと志を立てる時期でもあります。しかし、私たちはともすると、彼岸をどこか遠くの手が届かない世界であると思い、お悟りを求める気持ちを抑えてくしがちです。

メーテルリンクによる有名な童話『青い鳥』では、チルチルとミチルの兄妹が、幸せの象徴である青い鳥を求め、過去や未来の国を旅します。なかなか見つからなかった青い鳥でしたが、結局のところ、それは自分たちの最も身近な場所(自宅の鳥かごの中)にあったことに気づくと

いうお話です。私たちはお悟りの世界をこの兄弟と同様に過去や未来に求めがちですが、実は、「今」という時間、「ここ」という場所にお悟りの世界が広がる可能性をみすみす見逃しているのかもしれない。

大本山永平寺をお開きになった道元禪師はその著作『正法眼蔵』仏教の巻において、「修行の彼岸へいたるべしとおもふことなかれ、彼岸に修行あるがゆゑに修行すれば、彼岸到なり」とお示しです。「修行を積むことによつて彼岸に到ろうと思ふのではなく、修行していることがとりもなおさず彼岸に到っていることであり、彼岸に到るのではなく、彼岸が自らの足元に到るのだ」という意味です。現実をしっかりと歩みながら、お悟りの世界(彼岸)に思いを馳せ、仏道修行に励む。まずはそのきっかけとしてお墓やお寺参りをし、ご先祖さまに手を合わせるという仏道修行に親しむことで、「今」「ここ」にお悟りの世界を広げる歩みを始めたいものです。



仏事

Q & A

第三十四回

Q、忌中は仏壇を閉めなければならぬのですか？

A、閉める必要はありません。神棚の場合は、「神棚封じ」といい、亡くなってから四十九日目を迎えるまで神棚に「ズ」と書いた白い紙を貼る風習があります。これは、神様が住む聖なる場所に死忌が及ばないようにする意味があるのですが、仏壇を閉めるのは、このことと混同しているためと思われまふ。忌中であっても、ご本尊さまやご先祖さまにみ明かし・お線香・供物や供華を供え、亡くなった方が少しでも早く仏国土(浄土)に赴くことができるようお導きをお願いしましょう。同様に、忌中であっても、位牌堂や位牌をお祀りしている地域のお堂にはお参りしていただく結構です。

大安寺の最新情報はこちらをご覧ください。

■大安寺ホームページ

<http://www.daianji.jp>



@daianji2010

※行事予定などをお知らせします。



<http://www.facebook.com/daianji>

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)